第112回初任教育

消防学校奮闘記(春から夏にかけて)

人材マネジメント課

今年の4月からスタートした第112回初任教育は、3ヶ月が経過し、折り返しに入りました。

初任教育生は、日々、訓練礼式、消防・救助・救急の訓練、座学に取り組んでいます。





1 山岳徒歩訓練

5月 10 日には、消防活動に必要な体力の増進を図り、判断力、注意力及びチームワーク等を養成するために「山岳徒歩訓練」が実施されました。

この訓練は、消防学校から大東市と四條畷市にまたがる飯盛山や権現の滝(ごんげんのたき)を経由し、大東市立野外活動センターまでの全長 12 キロのコースを、途中で9か所のチェッ

クポイントを設け、地図とコンパスを頼りにゴールを目指して各班がチェックポイントを正確に通過し、かつ、ゴールまでの所要時間について競うというものです。



初任教育生は、慣れない山での活動に戸惑い ながらも、班員同士が協力し、仲間との絆を深 めました。

また、道中の山道歩行の注意点や遭難時の対応など危機管理を意識することで、全員脱落することなくゴールすることができました。

到着後、大東市野外活動センター敷地内での 清掃活動では、斧での切り株除去や鎌での草刈 りなど、とても良い経験になりました。

2 初任教育生所属研修

6月29日(水)から7月1日(金)の間、初 任教育生の所属服務実習がありました。

7月1日(金)に予防指導課が行った講義では、模擬立入検査を実施しました。

模擬立入検査では、初任教育生が4つの班に 分かれ、事前に消防法令違反が設定された消防 本部庁舎内の立入検査を行い、指導する法令根 拠を調べて、関係者に立入検査結果通知書を交 付するまでの一連の流れを体験するものです。

今回の模擬立入検査は、消防学校入校からまだ3か月しか経っていない彼らではありますが、「これくらいは大丈夫」という市民目線から、「万が一火災が発生した場合、人命危険があるかもしれない」という消防士の目線にスイッチしてもらうことを目的としたものです。





中には事前に設置した「屋内階段内の物品存置」や「誘導灯の視認障害」などの違反状況を完全に見逃してしまう班もありましたが、必死にメモを取りながら立入検査を行い、六法と格闘しながら指導根拠を検索し、粗削りではありますが、毅然とした態度で立入検査結果通知書



の内容を関係者に指導していました。

初任教育生からは、「まだまだ消防士の目線にはほど遠いですが、初めての立入検査を体験することができ貴重な経験になりました。」、「今回の経験を残りの消防学校や配置に就いてから活かしていきたいと思います」という感想が聞かれました。

